

2016.7.26 「ロールモデル講演会 森の仕事を目指して～女性林業技術者の奮闘記」を開催しました

平成 28 年 7 月 26 日に、男女共同参画推進室では「ロールモデル講演会 森の仕事を目指して～女性林業技術者の奮闘記」を開催しました。

男女共同参画支援ステーション長の小島優子准教授が司会を務めました。ロールモデル講演会では、高知大学卒業生に、大学時代に学んだことや、職業キャリアについてお話いただきます。学生が自分の将来のキャリアや男女共同参画について考えるきっかけを作ることを目的とします。今回のロールモデル講演会は、DC セミナー指定（博士）（文系・理系）、黒潮圏セミナー指定（修士）（文系・理系）を受けて、大学院生が積極的に参加しました。共通教育科目「女性とライフ・キャリアー男女共同参画の視点から」の履修者も参加し、21名の参加者を得ました。



講師には、高知県林業振興・環境部森づくり推進課長塚本愛子課長を招きました。塚本課長は高知大学農学部林学科卒業後、1983年に女性林業技術職員第一号として高知県に入庁し、農林水産部林業振興課技師、文化環境部循環型社会推進課課長補佐、環境省地球環境局市場メカニズム室室長補佐、高知県新エネルギー推進課長を経て現職に就きました。

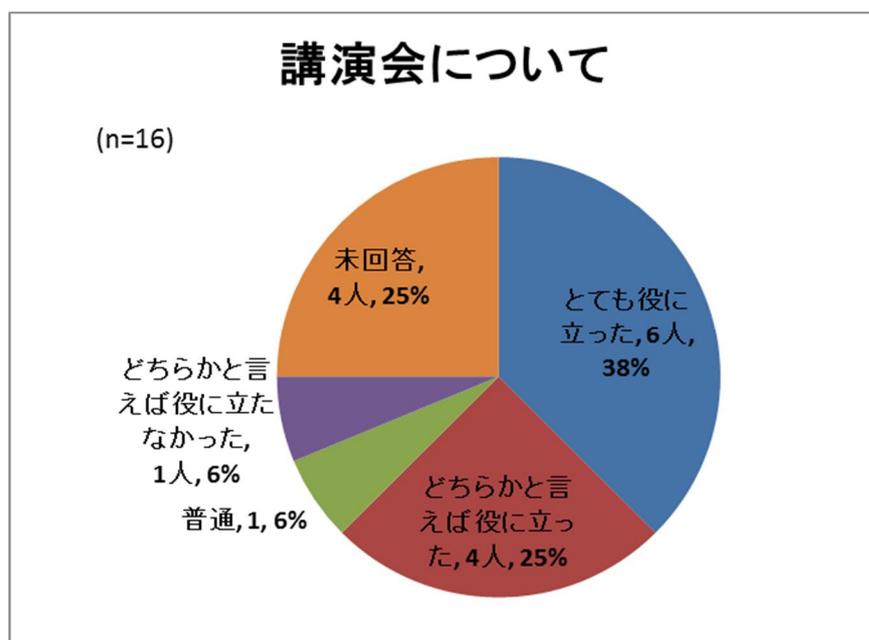


講演会では、高知県の森林・林業施策についてお話いただきました。高知県の森林面積率は84%と全国1位を誇ります。こうした中、第3期産業振興計画では、将来像として「地産外商が進み、地域で若者が誇りと志を持って働ける高知県」という10年後の成功イメージを抱いています。高知県では、担い手の育成・確保のために高知県立林業学校を創設しました。

高知県の林業職に占める女性の割合は、次第に増加しています。平成28年4月現在、女性林業職は8%（17人／210人）を占めています。これから高知県庁を受験される方へは、「林業と聞くと男性の職場というイメージが強いと思いますが、最近は女性職員も増えてきており、男女関係なく働ける楽しい職場だと思います」というメッセージを頂きました。

1993年に塚本課長は、女性林業技術職員の全国組織「豊かな森づくりのためのレディースネットワーク・21」を創設し、初代会長に就任されました。「レディースネットワーク・21」は、3人の女性林業技術職員が、全国の自治体で働く女性林業技術者によびかけてネットワークを組みました。山の仕事着の製品化や森林フォーラムの開催などに取り組んでいるそうです。

最後に、キャリアデザインと職業選択についてのお話がありました。キャリアデザインとは、自分の仕事人生のプランを自ら設計し決定することです。そのためには、「自分の得なことは何か?」「自分のやりたいことは何か?」「どんな自分に意味や価値を感じられるのか?」を絶えず自分に問いかけることが大切です。異動や転勤、結婚や出産があり、人生は計画通りに進むとは限りません。しかし、新しいチャンスは必ずやってくるという楽観性や、学び探求する原動力である好奇心、失敗したとしても続けようとする持続性といったコツさえつかめば、やりたい仕事にかえることができる、とご自身の経験からお話されました。



参加者からの感想

・女性としてのキャリア経験のお話を聴けて良かったです。90分の社会人講演はあまり機会がなかったのでためになりました。自身も新しい職場で女性として頑張っていきたいと思えました。

・とても参考になりました。就職の時の話は男性の話が多かったので女性の話をお聞きできて良かったです。

・私の職場でも、最近では女性職員が増えてきました。男女問わずに仕事に専念できるよう、今回の講演を活かしたいと思います。

・専門的なことや、個人的な考えなどを聴くことができ、本当に良かったです。高知県での就職を考えるならば、林業が有力かと思っていたので、背中を押された気がしました！ありがとうございます。

・女性も森の仕事で活躍できるという印象が心に残った。自分がしたいなら、性別に関係なく、頑張って実現する方法を考える。

・技術系統の仕事に、女性が進出してきているのを知り、安心しました。東京に行ったりして、苦労してこその方のお話を聞くことができ良かったです。ありがとうございました。

・高知に着任して間もないですので、高知の林業の状況もよく分かり、大変面白く拝聴しました。キャリアデザインについて「コツをつかめば」のコメントには大変感銘を受けました。ありがとうございました。(コツをつかむまでがけっこう大変…とも思いますが。コツのために右往左往しています)

・高知県庁の取組がよく分かった。自分のキャリアデザインを考えるためにすごく参考になった。ありがとうございました。